

学びと
共鳴編

中京マチビト



Café 開催報告

「マチビト×通りの復権」

中京マチビトCafeとは？

中京の今後の自主的なまちづくりについて、ワークショップ形式で話し合う交流会です。まちづくりについての情報交換、交流の場として開催しています。

1 今回の目的

- 「通りの復権」のイメージ共有
- まちなか細街路の現状の共有
- 参加者の交通行動についての行動意図へのはたらきかけ

2 プログラム

1 講演

「人が導く通りの復権」

山田忠史准教授にまちなかの細街路における交通問題について講演いただきました。

2 「歩いて楽しいまちなか」

をテーマに事例紹介

- ・谷口親平さん(姉小路界隈を考える会)
- ・西村祐一さん(京の三条まちづくり協議会)
- ・西村勇さん(中京・花とみどりの会)

分かれてグループワーク

3 意見交換（対話グループ）

第1ラウンドでは「まちなか細街路において『歩行者優先の通りづくり』にさらに必要なもの」について、第2ラウンドでは「1Rの課題解決に寄与する利用者で取り組めるアイデア(通りを利用するうえで心がけるべきこと:通りの作法)」について4～5名のグループに分かれて、意見交換スタート！

3 まち歩き

三条通と姉小路通を歩いてフィールドワークを行いました。

4 意見交換（気づきの共有）

まち歩きグループの意見を聞いたうえで、全員で「新しい気づき」「こんなことしていきたい」について意見交換。

3 京都大学大学院・山田忠史准教授の講演と「歩いて楽しいまちなか」をテーマに意見交換&まち歩き！

中京マチビト Cafe「学びと共鳴編」は講演で“学び”、皆で同じテーマについて話し合い“共鳴”することを目的に昨年度から年2回開催しています。今年度1回目となる「学びと共鳴編」は「通りの復権」をテーマに開催しました。



講演は京都大学大学院・山田忠史准教授。山田准教授は中京

区の取組である交通問題プロジェクトミーティングの座長として、地域や学校関係者の皆さんと共に、細街路の安全確保を重点とした交通対策に取り組んでおられます。今回の講演では、違法な駐車・駐輪、危険な運転など、細街路で見られる交通問題には、「人」の交通への意識・行動により解決できることもたくさんあり、良い「通り」は行政や警察だけでなく、通りを利用する「人」が作りあげるものでもある、ということに参加者に呼びかけられました。講演後には、より「通りの復権」を身近に感じていただくため、地域で活動されている方々に事例紹介いただきました。

次に、参加者は対話グループとまち歩きグループに分かれ、それぞれグループワークを行いました。対話グループは4～5名のグループに分かれて意見交換を行い、まち歩きグループは、三条通と姉小路通を実際に歩いてフィールドワークを行いました。途中からは門川市長も合流し、一緒にまち歩きを行ったあと、歩いて気づいたことを対話グループと共有しました。

その後は再び全員で「新しい気づき」「こんなことしていきたい」について意見交換を行いました。

今回は初めて外に出てまち歩きを行いました。実際に目で見て感じる気づきは印象深く、新たな発見が多くありました。講演、意見交換、まち歩きを通して「通りの復権」について知り、「歩いて楽しいまちなか」に向けてそれぞれの考え方を共鳴していただけたのではないのでしょうか。次回のマチビト Cafe “学びと共鳴編”は12月3日です！たくさんの方のご参加をお待ちしています！

8月は「道路月間」でもあることから、多様な関係機関・地域の団体の皆様にご参加・ご協力いただきました。ありがとうございました。

協力団体：「姉小路界隈を考える会」「京の三条まちづくり協議会」「中京・花とみどりの会」
協力機関：中京警察署、京都市（サービス事業推進室、歩くまち京都推進室、西部土木事務所、自転車政策推進室、道路環境整備課、上下水道局）、京都文化博物館

●当日の会場風景



●参加者の声 (一部抜粋)

- 私は普段自転車に乗って移動しているのですが、山田先生のお話を聞き、交通問題として、根本的には車も自転車も同じということと言われ、ハッとしました。乗っている人自身の心がけ次第で、交通問題は解消していくことができるとわかりました。
- 「通り」というものを何気なく考えていたのですが、少しの工夫で人の意識が変わり、通りが変わり、まちが変わっていくのだと知りました。歩いて初めてまちを知りました。これだけの人が集まったのだから、色々なアイデアと一緒に考えだしていけたら良いととても感じました。
- すべて心の持ち方、考え方で人の行動が決まり、変わるものだと改めて感じることができました。何気ない行動が他者にとっては迷惑となっていることもあるかと思うと、恥ずかしくもあり、改めていかないといけないと思います。
- 普段あまり意識していなかったけど、通りによって雰囲気が変わることに気づい

たし、それを住民や行政の方々が、「この町をこうしたい！」という想いから特徴を出していつていることも知ることが出来た。

- 京都市の中心部に住んでいる人と外から来た人の認識の違いが意外に大きくて驚きました。
- 通りの復権のためには、自動車や自転車に乗っている人に気遣いが大切であると再認識した。
- 自転車にはよく乗るので、今日歩かせてもらった時にスピードを上げて脇を通られることが怖いと感じたので、気を付けなければならないと思いました。人の気持ちが変わると言われたことを少し実感しました。
- 中心地に訪れる際、車移動ではなく公共交通機関を利用し、町並みを楽しんで歩くという心がけをしたいと思いました。
- 歩いて楽しい子どもや年寄りが安心して通りに出れる雰囲気づくり。京町家や緑の風情、我が家でできることは少しずつでもしたいと思います。そのことが、人が通り、活気、健康につながるからです。
- 自転車と歩行者、自動車を分けるクリーム色の線は多くの地域で取り入れることができると思う。
- まちづくりの一番の要となる人の交流の手法として、地藏盆の機会を利用した灯籠やイベントの実施など、参考となった。



配布資料：まち歩き MAP

浴衣でご参加いただきました。
ありがとうございました！

